

第66回医学教育セミナーとワークショップ in 岡山大学開催報告

The 66th Medical Education Development Center, Seminar and Workshop in Okayama University

会長 那須保友 (岡山大学医歯薬学総合研究科附属 医療教育センター)

Yasutomo Nasu (Center for the Development of Medical and Health Care Education, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

この度、第66回医学教育セミナーとワークショップ in 岡山大学を2017年10月14日(土)～15日(日)に、岡山大学鹿田キャンパスにて岐阜大学 MEDC, Medical Education Development Center との共催で開催しましたのでご報告いたします。

今や医学教育の対象分野は、医学科の教育のみならず、事務職を含む医療者全体への多職種連携教育にまで広がり、更に学部教育から生涯教育までも幅広く網羅する時代に突入しています。当センターにおいてもスタッフが一丸となり、教授方法、カリキュラム作成法、学習者の評価法などを日々進化させているところです。本セミナーとワークショップは、2000年から年4回、岐阜大学のコーディネートにより全国医学部で開催され、その内容も医学教育の動向に合わせてそれぞれで多様化しつつあるようです。現在の医学科を取り巻く環境の変化として、国際基準をふまえた医学教育分野別評価の推進や、臨床実習後に行う客観的臨床能力試験 (OSCE: Objective Structured Clinical Examination) である「Post-CC OSCE: Post Clinical Clerkship OSCE」の正式導入に向けた検討加速ならびに、医学教育モデル・コア・カリキュラムの改定などがあります。改訂版モデル・コア・カリキュラムの中では、医師として求められる基本的資質・能力の実質化や地域医療・地域包括ケアシステム教育の充実化などを、臨床研修の到達目標及び生涯教育カリキュラムとも整合させつつ、教育・学修を行うことが強く求められています。そこで今回のセミナーとワークショップでは、「医療人の多様性と自己内省 ～ Global and Identity ～」を開催のメインテーマとしました。

開催2日間ともに生憎の小雨が混じった天候でしたが、全国から200名を超える参加者が来岡され、大変集中したセミナーとワークショップが展開されました。

メイン会場となった Junko Fukutake Hall での開会に続き、opening session として曹源寺 堀口宗彦副住職をお招きしてマインドフルネスを通して内省を行う、「座禅で感じる、医療現場におけるマインドフルネスの重要性」を行いました。現在、世界的に医師のバーンアウトが問題となっており、日本でも働き方改革に注目が集まっている中、マインドフルネスセッションが医師のバーンアウトに関する感情指数を改善させたとする報告もなされています。引き続いて、医療系学部に新しく導入されている行動科学を考える「『人間を全人的により深く理解しようと試みる』行動科学の導入とそのアウトカム」、多職種教育を目的とした「多職種トレーニング (IPE: interprofessional education) プログラムをブラッシュアップしよう」、医療現場における男女共同参画促進のための「医学教育の視点で職場の男女共同参画を考える」、模擬患者シナリオ作成から実践を行う「模擬患者参加型教育におけるファシリテーションスキルを磨こう!」のワークショップを行いました。また主に医療面接シミュレーションなどで患者役を演じてくださっている、中四国を中心とした模擬患者さんが一堂に会した「模擬患者大交流勉強会」も開催されました。

セミナーとしては、岡山大学が積極的に行っている国際バカロレア入試について、岡山大学アドミッションセンター 田原 誠教授と全学教育・学生支援機構の Sabina Mahmood 准教授に「医療系学部における国際バカロレア入試と学部教育」についてご講演いただきました。また、実際に本学の国際バカロレア入試を経験した医学科学生2名も登壇して下さり、大変活発なディスカッションが行われました。1日目終了後に開催された懇親会では、大塚愛二医学部長にご挨拶いただき、和気あいあいとした中で、参加者間のしな



開催前の Junko Fukutake Hall



opening session での座禅



セミナーで登壇する2名の医学科学生



学生企画ワークショップのディスカッションの様子



ワークショップの様子



終了後の記念撮影

やかな医療教育ネットワーク構築ができました。

2日目には、指導医のプロフェッショナルリズム教育として、「『どのように人と現場は変わっていきけるか』医療人の態度教育を考えよう」、並びに他施設からの「ゲーミフィケーションによる楽しい『ふりかえり』手法開発」のワークショップを開催しました。さらに今回は、本学医学科学生会が中心となり、全国の医学生や医学教育者とともに学生企画「医学教育における学生参与の可能性を考えよう」ワークショップも行われましたが、医学生にとっても教えてもらう授業から、共に作り上げる授業への大きな意識変化につながったことと思います。

次世代により良い医療を伝承するためにも、これまでもそしてこれからも、医学教育における「改善サイクル」を回し続けることが求められます。その観点で

も、このたびのセミナーとワークショップ「医療人の多様性と自己内省 ～ Global and Identity ～」の開催は、本学が推進してきた高度医療人育成の取組みを、全国の教育者、学生、そして教育支援者の皆さんとともに改めて確認し、より高めることができた2日間であったと感じています。ご参加くださった皆様、企画運営にご協力いただいた皆様、この場をお借りして深く感謝申し上げます。有難うございました。

(岡山大学医歯薬学総合研究科附属 医療教育センター

三好智子 記)

平成29年12月1日受稿

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

電話：086-235-6597 FAX：086-235-6597

E-mail：tmiyoshi@md.okayama-u.ac.jp